

JASRI ご挨拶

(財)高輝度光科学研究センター

理事長 吉良 爽

SPring-8 は今年の 10 月で 10 周年を迎えますが、この 10 年間ハードウェアとしては世界一の地位をずっと保って参りました。これは科学技術の関係する世界ではあまりないことではなからうかと思っております。ただし、いいものを作ったという話は最初の 2,3 年で効果が薄れ、最近の社会や行政から見た評価の中心は産業利用に移ってきております。SPring-8 は幸いなことに最近産業利用が伸びており、文部科学省がその点を評価し、よく面倒を見てくれております。この会議は、産業利用の代表的な団体 3 つにより開催されているものですが、産業利用の目玉というのは実はもう一つあって、それはタンパクです。グローバルに見ますと、どこの施設でもタンパクというのが産業利用のメインの看板です。ここ SPring-8 も 49 本あるビームラインのうち、タンパクに使われているのは 12 本あり、かなりの仕事がされていますが、タンパクのコミュニティーでは、成果を絶対外に漏らさないというのが基本姿勢であり、成果を秘密にするために利用料金を払って使われております。SPring-8 の有料利用者は、全体の 2% ぐらいになります。そのかなりの部分を占めるのがタンパクの成果非公開の利用であります。産業で本当に役に立つというのはお金を払った利用だという一つの見方もありますので、産業利用というのはどういうものであるか、どうあるべきであるかという議論を踏まえて、その答えを皆様が出して下さることを私は期待しております。

産業利用はここを作ったときの目的の一つですので、ここ数年来努力して参りました。また、文部科学省が、産業利用が進展しないという強い危機感を持っていろいろな施策をして下さいました。お金と人を結びつけて、今日のような体制を作り、今のような立派な支援室を作ることができたのも、やはり文部科学省の施策のおかげであります。この施策の実行に際しては XAFS の利用者などにかなりご迷惑をかけたりましたが、長い目で見て、これだけ人を充実できたことが非常に良かったと思っております。その結果、産業利用というのはかなり安定した体制になりました。今私が心配しているのは、昔、学術が自分の安定した既得権を守ろうとして産業を締め出したように、産業も現状に閉じこもって、発展を自分で阻害してしまうのではないかということです。これはぜひ心して頂きたいと思います。

SPring-8 のビームラインは 62 本作るように設計されております。45 本目ぐらい以降の最近できたビームラインは、兵庫県が作ったり、創薬産業が作ったり、JASRI が寄付したものです。現在も、民間や一般から 6 件の応募があり、すでに 5 件を承認しており、先行しているところは、具体的な設計や申請の段階に入っております。このようにして SPring-8 は専用ビームラインの時代になりつつあります。最終的な形として、共用ビームラインと専用ビームラインの数は互角になります。今までは共用ビームラインが主体の運営体制だったのですが、専用ビームラインが優勢になったということ踏まえた新しい文化が SPring-8 に必要ではないかと私は思っております。この会議を通して、産業の方は、専用ビームラインと共用ビームラインが入り乱れて活躍する新しい時代に入ったということ認識して、学との交流を今まで以上に増やし、一層発展されることを期待します。